

横浜市景況・経営動向調査
第132回（特別調査）

特別調査

「最新の経営動向に関する調査」

横浜経済の動向（令和7年3月）

第132回横浜市景況・経営動向調査報告（特別調査）

横浜市経済局

【調査の概要】

1. 目的・内容 : 横浜市の経済・産業政策の効果的な展開に必要な企業動向・ニーズを早期かつ的確に把握するために、市内企業を対象に「景況・経営動向調査」を、四半期毎に年4回（6月、9月、12月、3月）実施しています。
2. 調査対象 : 市内企業 1,000社
回収数673社（回収率：67.3%）

（ ）内は調査対象企業数

	市内本社企業				合計
	大企業	中堅企業	中小企業	うち小規模企業	
製造業	9 (18)	9 (27)	254 (379)	122 (195)	272 (424)
非製造業	27 (40)	102 (155)	272 (381)	83 (126)	401 (576)
合計	36 (58)	111 (182)	526 (760)	205 (321)	673 (1,000)

※規模別の定義は以下の通りです。

- 大企業・・・横浜市に本社を置き、資本金が10億円以上の企業
- 中堅企業・・・横浜市に本社を置き、資本金が以下の基準に該当する企業
 - 製造業や卸売業、小売業、サービス業以外の非製造業：3～10億円未満
 - 卸売業：1～10億円未満
 - 小売業、サービス業：5千万～10億円未満
- 中小企業・・・横浜市に本社を置き、資本金が上記中堅企業の基準未満の企業
- 小規模企業・・・中小企業のうち、常時雇用する従業員数が以下の基準に該当する企業
 - 製造業：20人以下
 - 卸売業、小売業、サービス業：5人以下
 - 卸売業及び小売業、サービス業以外の非製造業：20人以下

業種の分類

- ・製造業（9分類）：食料品等、繊維・衣服等、印刷、石油・化学等、鉄鋼・金属等、一般機械、電機・精密等、輸送用機械、その他製造業
- ・非製造業（9分類）：建設業、運輸・倉庫業、卸売業、小売業、飲食店・宿泊業、不動産業、情報サービス業、対事業所サービス業、対個人サービス業

3. 調査時期: 令和7年1月30日～2月25日

4. その他: 図表中の構成比は小数点第2位を四捨五入し表記しており、表示上の構成比を合計しても100%にならない場合があります。

目次

調査結果の概要	2
特別調査結果 — 「最新の経営動向に関する調査」 —	6
調査票	14

第 132回横浜市景況・経営動向調査（令和 7 年 3 月実施）（特別調査）

—最新の経営動向に関する調査—

調査結果のまとめ

- ・ 経営の方向性について、「事業を拡大していく予定」が約5割となった
- ・ 新たに事業展開（または協業）を考えている領域・分野について、「環境・脱炭素・新エネルギー」（30.7%）が最も多くなった
- ・ 設備拡充にあたり重視するポイントは、「従業員の通勤」（42.5%）が最も多く、次いで「コストの低さ（オフィス賃料等）」（41.0%）、「顧客との近接性」（37.6%）となった

【調査のポイント】

- 経営の方向性（概ね今後5年程度）について、全産業では「現状を維持する予定」（44.7%）が最も多くなった。次いで「事業を拡大していく予定」（38.6%）、「積極的に事業を拡大していく予定」（10.7%）となり、「事業を拡大していく予定」と「積極的に事業を拡大していく予定」を合わせると49.3%となった。
- 新たに事業展開（または協業）を考えている領域・分野について、全産業では「環境・脱炭素・新エネルギー」（30.7%）が最も多く、次いで「食・ヘルスケア」（23.2%）、「デジタル・AI・量子技術」（22.4%）となった。
- 施設や設備を新設・増設する場合に重視するポイントについて、全産業では「従業員の通勤」（42.5%）が最も多く、次いで「コストの低さ（オフィス賃料等）」（41.0%）、「顧客との近接性」（37.6%）となった。

【調査対象】 市内企業1,000 社（回収数：673社、回収率：67.3%）

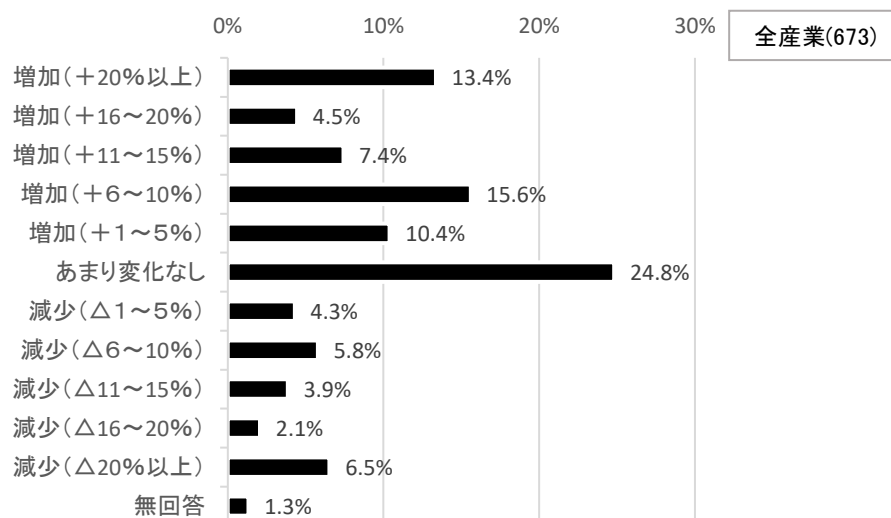
【調査時期】 令和7年1月30日～2月25日

特別調査の概要

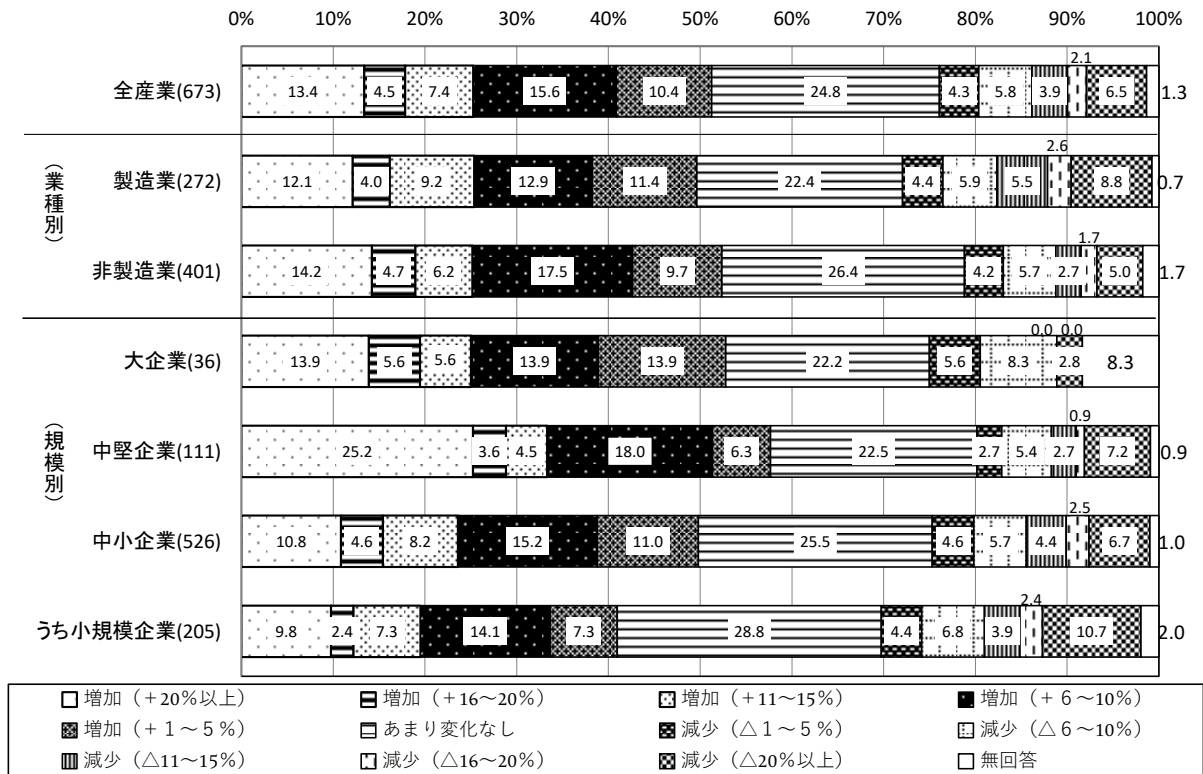
1 直近の決算年度とコロナ前（2019年度）との売上高の比較について

- 直近の決算年度とコロナ前（2019年度）との売上高の比較について、全産業では「あまり変化なし」（24.8%）が最も多く、次いで「増加（+6～10%）」（15.6%）、「増加（+20%以上）」（13.4%）となった。
- 規模別にみると、「増加（+20%以上）」が中堅企業（25.2%）で最も多く、「あまり変化なし」が大企業（22.2%）、中小企業（25.5%）、うち小規模企業（28.8%）で最も多くなった。

図表1-1 直近の決算年度とコロナ前(2019年度)との売上高の比較について（単一回答）【全産業】



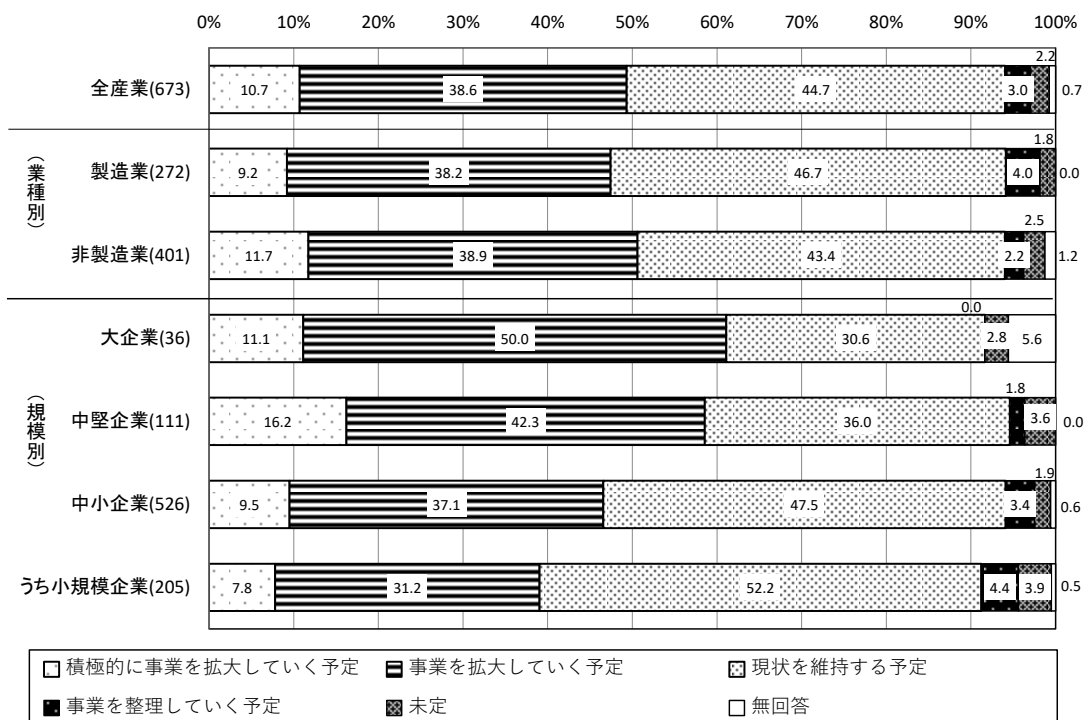
図表1-2 直近の決算年度とコロナ前(2019年度)との売上高の比較について (単一回答)
【全産業・業種別・規模別】



2 経営の方向性(概ね今後5年程度)について

- 経営の方向性 (概ね今後5年程度) について、全産業では「現状を維持する予定」(44.7%)が最も多く、次いで「事業を拡大していく予定」(38.6%)、「積極的に事業を拡大していく予定」(10.7%)となった。
- 規模別にみると、「事業を拡大していく予定」が大企業(50.0%)、中堅企業(42.3%)で最も多く、「現状を維持する予定」が中小企業(47.5%)、うち小規模企業(52.2%)で最も多くなった。

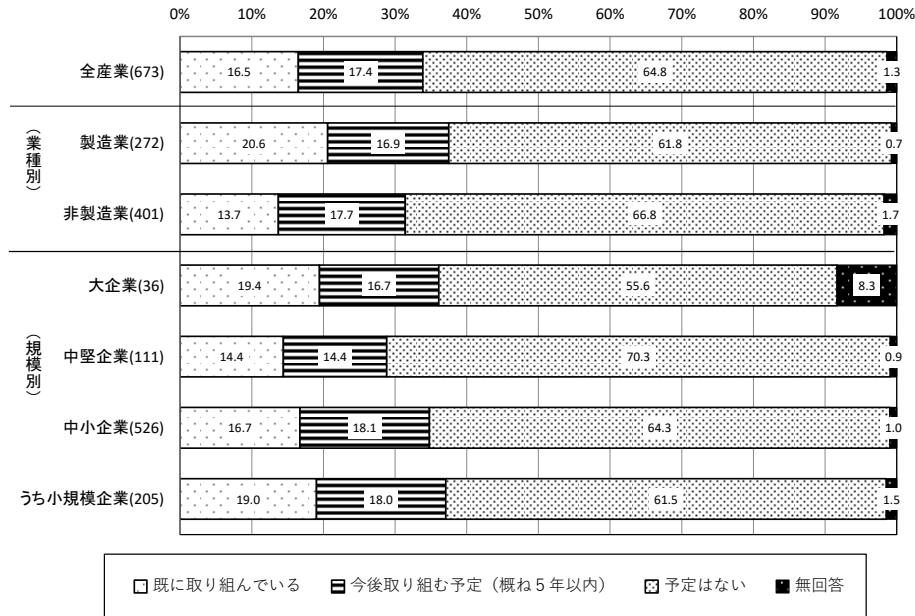
図表2 経営の方向性(概ね今後5年程度)について (単一回答) 【全産業・業種別・規模別】



3 既存ビジネスと異なる領域・分野における新たな事業展開(または協業)について

- 既存ビジネスと異なる領域・分野における新たな事業展開(または協業)について、全産業では「予定はない」(64.8%)が最も多く、次いで「今後取り組む予定(概ね5年以内)」(17.4%)、「既に取り組んでいる」(16.5%)となった。
- 業種別にみると、「予定はない」が製造業(61.8%)、非製造業(66.8%)と最も多く、次いで製造業は「既に取り組んでいる」(20.6%)、非製造業は「今後取り組む予定(概ね5年以内)」(17.7%)となった。

図表3 既存ビジネスと異なる領域・分野における新たな事業展開(または協業)について(単一回答)
【全産業・業種別・規模別】

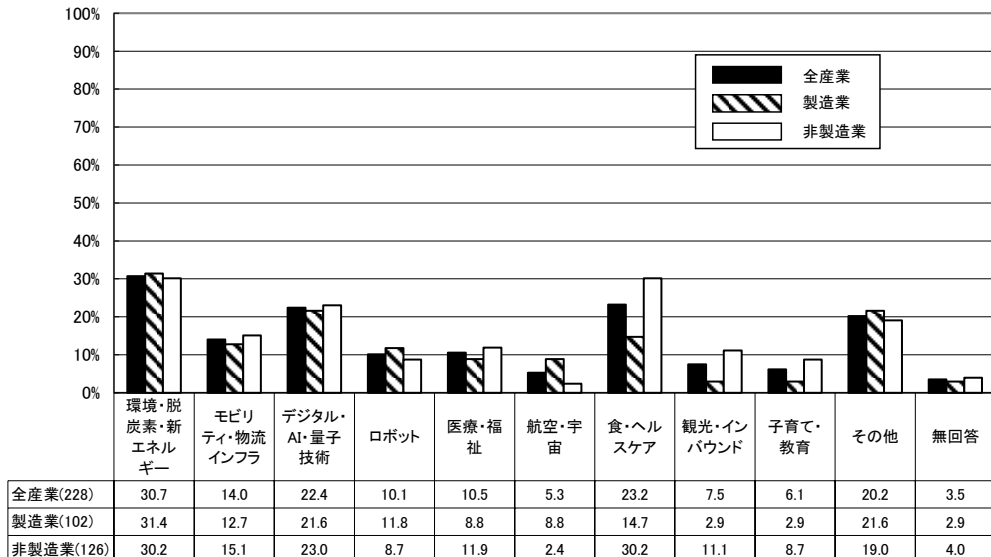


<Q3で「1. 既に取り組んでいる」、「2. 今後取り組む予定(概ね5年以内)」を選択された場合>

4 新たに事業展開(または協業)を考えている領域・分野について

- 新たに事業展開(または協業)を考えている領域・分野について、全産業では「環境・脱炭素・新エネルギー」(30.7%)が最も多く、次いで「食・ヘルスケア」(23.2%)、「デジタル・AI・量子技術」(22.4%)となった。
- 業種別にみると、製造業では「環境・脱炭素・新エネルギー」(31.4%)が最も多く、次いで「デジタル・AI・量子技術」(21.6%)と「その他」(21.6%)が同率となった。非製造業では「環境・脱炭素・新エネルギー」(30.2%)と「食・ヘルスケア」(30.2%)が同率で最も多く、次いで「デジタル・AI・量子技術」(23.0%)となった。

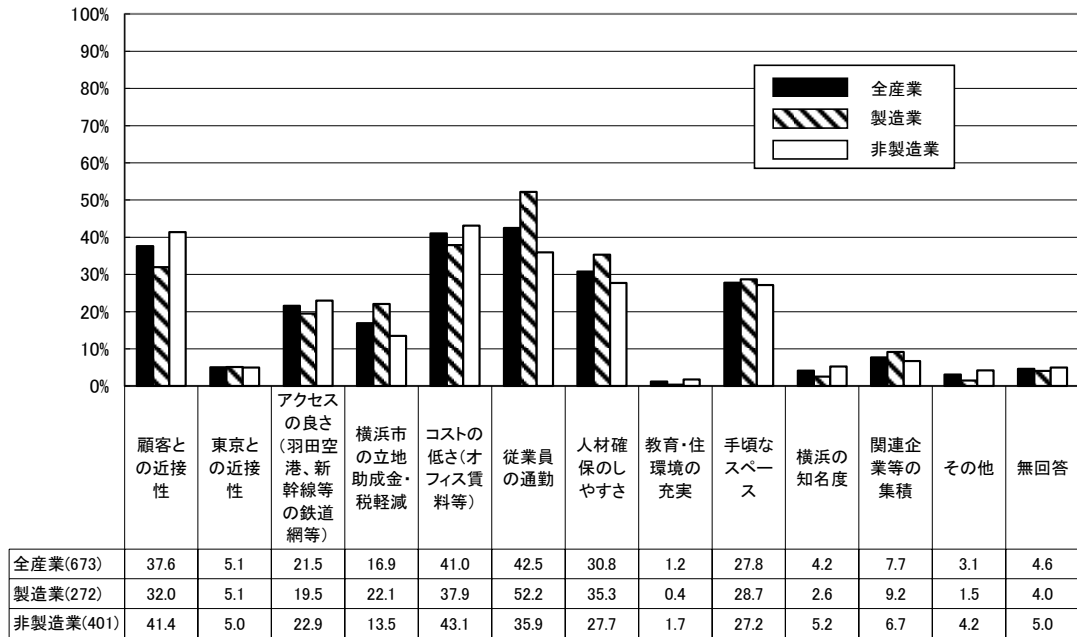
図表4 新たに事業展開(または協業)を考えている領域・分野について(複数回答)【全産業・業種別】



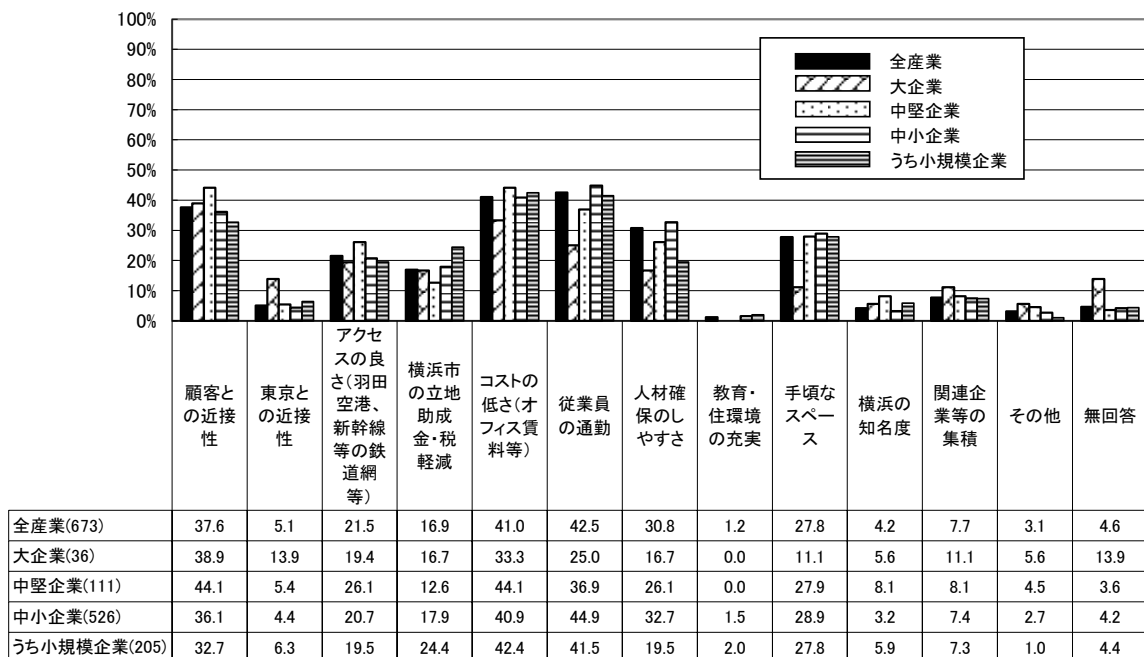
5 施設や設備を新設・増設する場合に重視するポイントについて

- 施設や設備を新設・増設する場合に重視するポイントについて、全産業では「従業員の通勤」（42.5%）が最も多く、次いで「コストの低さ（オフィス賃料等）」（41.0%）、「顧客との近接性」（37.6%）となった。
- 業種別にみると、製造業では「従業員の通勤」（52.2%）が最も多く、次いで「コストの低さ（オフィス賃料等）」（37.9%）、「人材確保のしやすさ」（35.3%）となった。非製造業では「コストの低さ（オフィス賃料等）」（43.1%）が最も多く、次いで「顧客との近接性」（41.4%）、「従業員の通勤」（35.9%）となった。
- 規模別にみると、大企業では「顧客との近接性」（38.9%）、中堅企業では「顧客との近接性」と「コストの低さ（オフィス賃料等）」（44.1%）、中小企業では「従業員の通勤」（44.9%）、うち小規模企業では「コストの低さ（オフィス賃料等）」（42.4%）が最も多くなった。

図表5-1 施設や設備の新設・増設において、重視するポイントについて（複数回答）【全産業・業種別】



図表5-2 施設や設備の新設・増設において、重視するポイントについて（複数回答）【全産業・規模別】



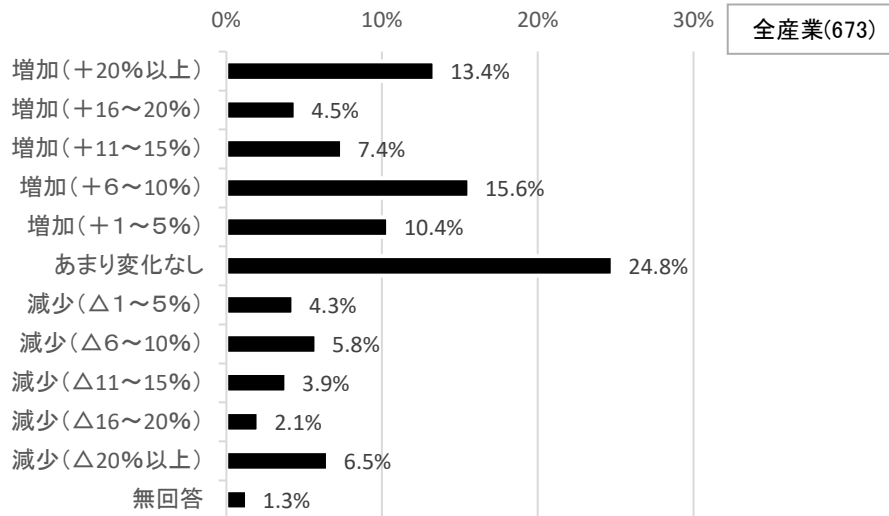
1 直近の決算年度とコロナ前（2019年度）との売上高の比較について

直近の決算年度とコロナ前（2019年度）との売上高の比較について、全産業では「あまり変化なし」（24.8%）が最も多く、次いで「増加（+6～10%）」（15.6%）、「増加（+20%以上）」（13.4%）となった。

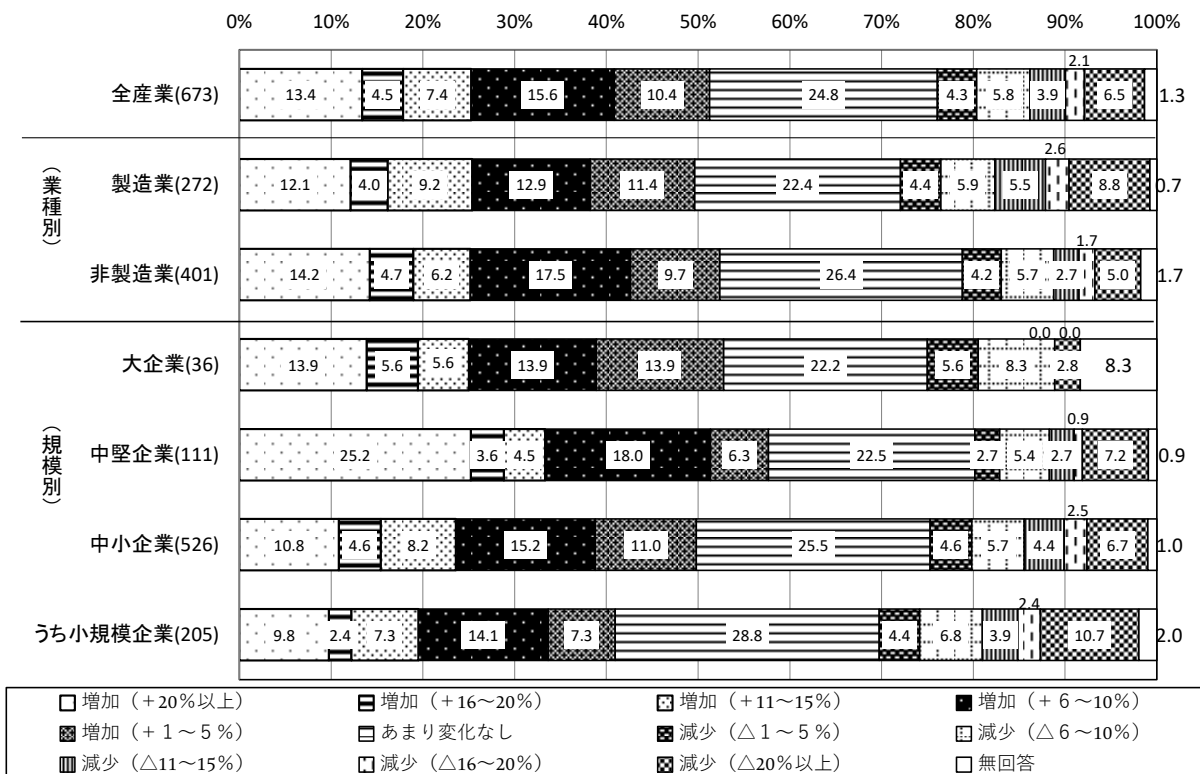
業種別にみると、「あまり変化なし」が製造業（22.4%）、非製造業（26.4%）と最も多く、次いで「増加（+6～10%）」が製造業（12.9%）、非製造業（17.5%）となった。

規模別にみると、「増加（+20%以上）」が中堅企業（25.2%）で最も多く、「あまり変化なし」が大企業（22.2%）、中小企業（25.5%）、うち小規模企業（28.8%）で最も多くなった。

図表1-1 直近の決算年度とコロナ前(2019年度)との売上高の比較について（単一回答）【全産業】



図表1-2 直近の決算年度とコロナ前(2019年度)との売上高の比較について（単一回答）【全産業・業種別・規模別】



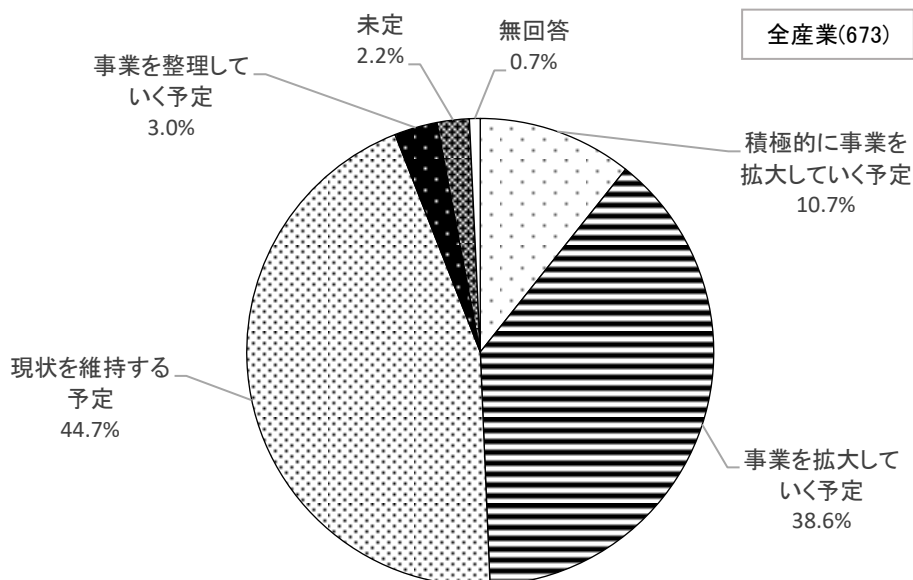
2 経営の方向性(概ね今後5年程度)について

経営の方向性（概ね今後5年程度）について、全産業では「現状を維持する予定」（44.7%）が最も多く、次いで「事業を拡大していく予定」（38.6%）、「積極的に事業を拡大していく予定」（10.7%）となった。

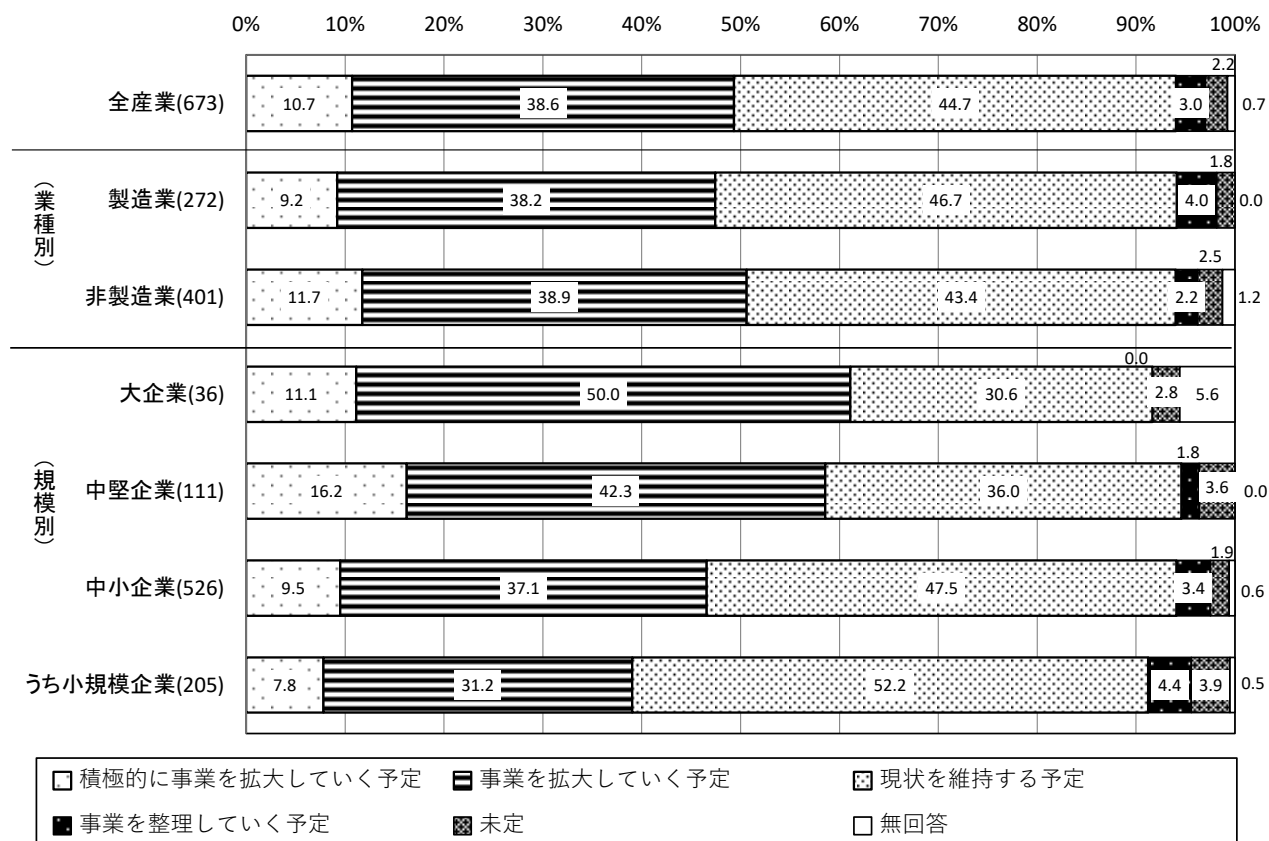
業種別にみると、「現状を維持する予定」が製造業（46.7%）、非製造業（43.4%）と最も多く、次いで「事業を拡大していく予定」が製造業（38.2%）、非製造業（38.9%）となった。

規模別にみると、「事業を拡大していく予定」が大企業（50.0%）、中堅企業（42.3%）で最も多く、「現状を維持する予定」が中小企業（47.5%）、うち小規模企業（52.2%）で最も多くなった。

図表2-1 経営の方向性(概ね今後5年程度)について（単一回答）【全産業】



図表2-2 経営の方向性(概ね今後5年程度)について（単一回答）【全産業・業種別・規模別】



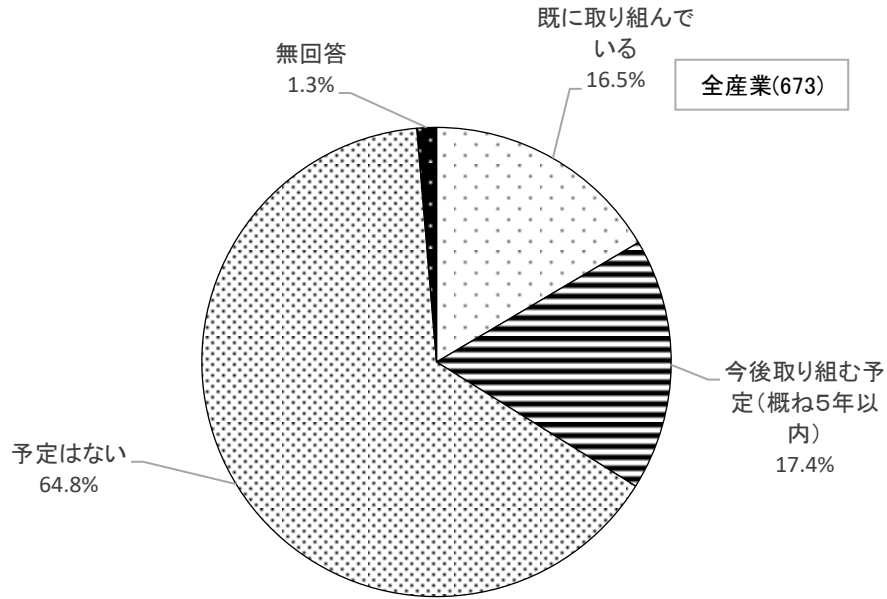
3-1 既存ビジネスと異なる領域・分野における新たな事業展開（または協業）について

既存ビジネスと異なる領域・分野における新たな事業展開（または協業）について、全産業では「予定はない」(64.8%)が最も多く、次いで「今後取り組む予定(概ね5年以内)」(17.4%)、「既に取り組んでいる」(16.5%)となった。

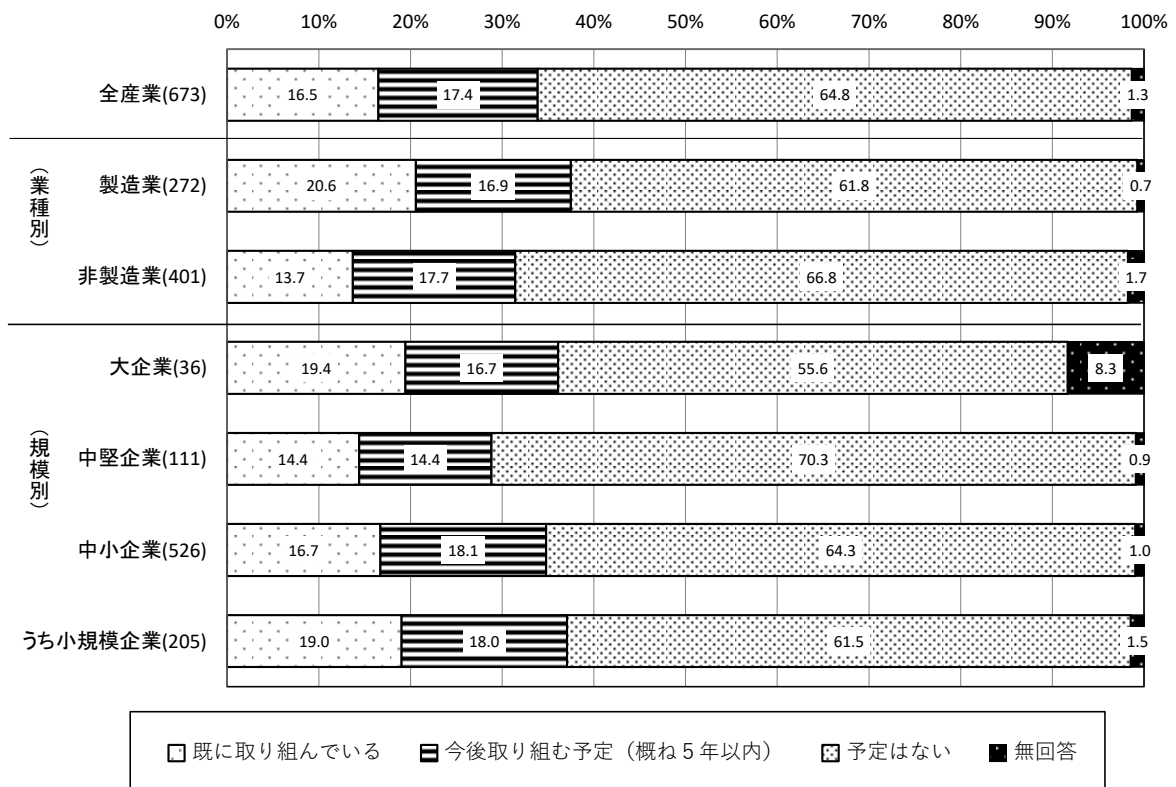
業種別にみると、「予定はない」が製造業(61.8%)、非製造業(66.8%)と最も多く、次いで製造業は「既に取り組んでいる」(20.6%)、非製造業は「今後取り組む予定(概ね5年以内)」(17.7%)となった。

規模別にみると、「予定はない」が大企業(55.6%)、中堅企業(70.3%)、中小企業(64.3%)、うち小規模企業(61.5%)でいずれも最も多くなった。

図表3-1-1 既存ビジネスと異なる領域・分野における新たな事業展開(または協業)について (単一回答) 【全産業】



図表3-1-2 既存ビジネスと異なる領域・分野における新たな事業展開(または協業)について (単一回答) 【全産業・業種別・規模別】



<Q3-1で「1. 既に取り組んでいる」、「2. 今後取り組む予定(概ね5年以内)を選択された場合>

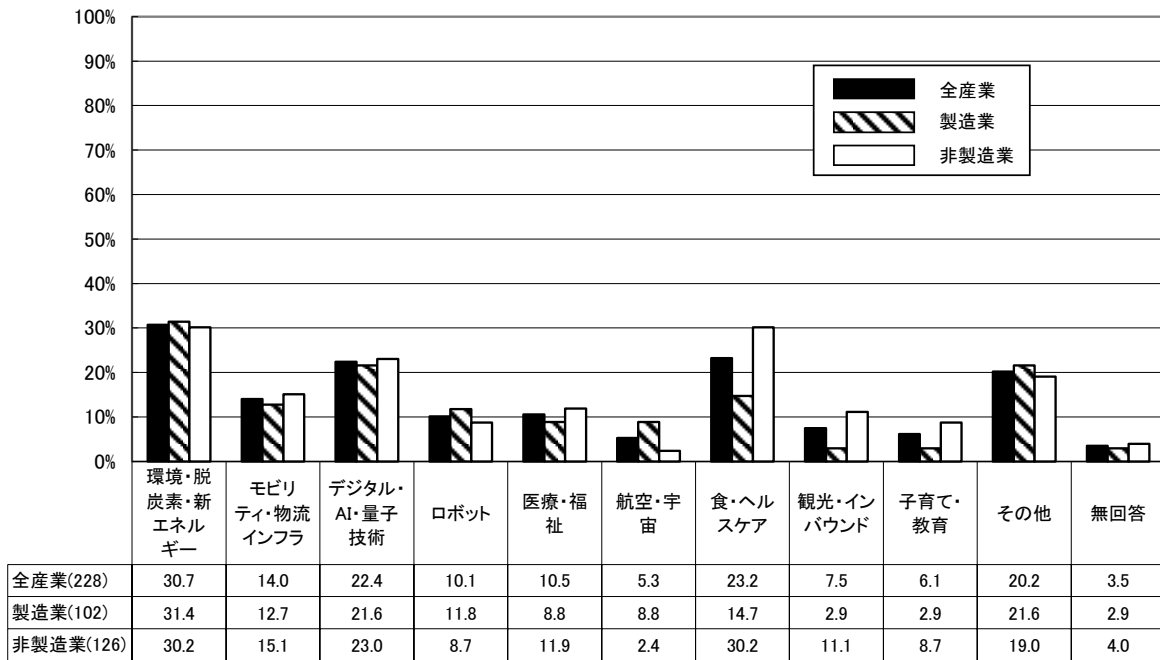
3-2 新たに事業展開(または協業)を考えている領域・分野について

新たに事業展開(または協業)を考えている領域・分野について、全産業では「環境・脱炭素・新エネルギー」(30.7%)が最も多く、次いで「食・ヘルスケア」(23.2%)、「デジタル・AI・量子技術」(22.4%)となった。

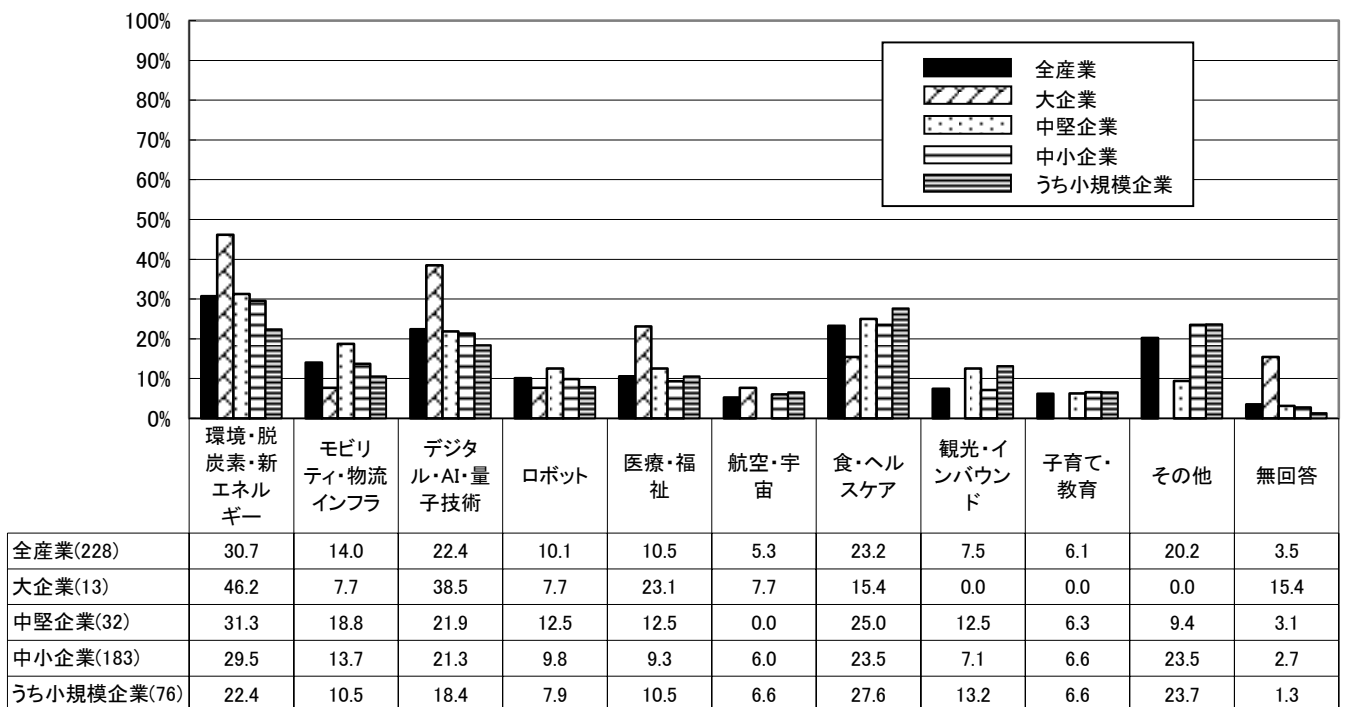
業種別にみると、製造業では「環境・脱炭素・新エネルギー」(31.4%)が最も多く、次いで「デジタル・AI・量子技術」(21.6%)と「その他」(21.6%)が同率となった。非製造業では「環境・脱炭素・新エネルギー」(30.2%)と「食・ヘルスケア」(30.2%)が同率で最も多く、次いで「デジタル・AI・量子技術」(23.0%)となった。

規模別にみると、「環境・脱炭素・新エネルギー」が大企業(46.2%)、中堅企業(31.3%)、中小企業(29.5%)でいずれも最も多く、「食・ヘルスケア」がうち小規模企業が(27.6%)で最も多くなった。

図表3-2-1 新たに事業展開(または協業)を考えている領域・分野について(複数回答)【全産業・業種別】



図表3-2-2 新たに事業展開(または協業)を考えている領域・分野について(複数回答)【全産業・規模別】



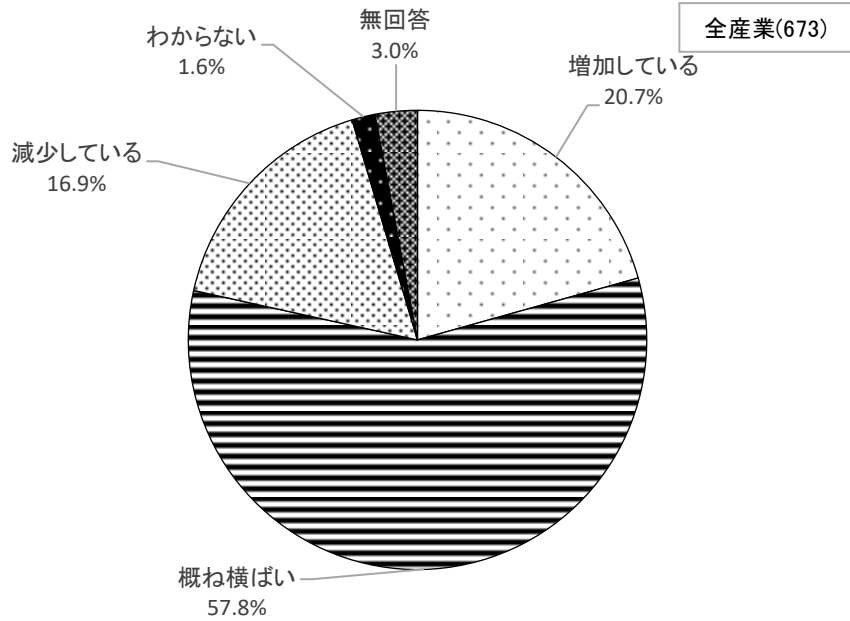
4 直近3年間の正規従業者（正社員・正職員等）の推移について

直近3年間の正規従業者（正社員・正職員等）の推移について、全産業では「概ね横ばい」（57.8%）が最も多く、次いで「増加している」（20.7%）、「減少している」（16.9%）となった。

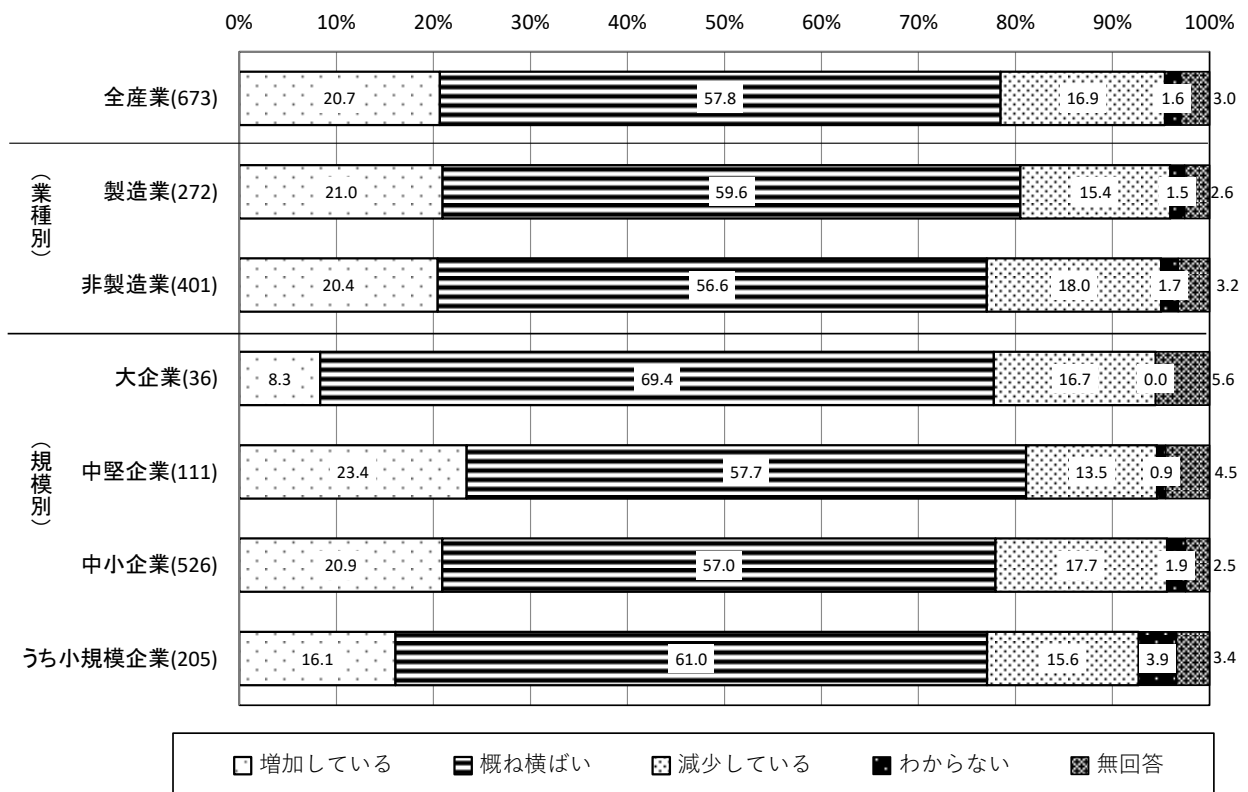
業種別にみると、「概ね横ばい」が製造業（59.6%）、非製造業（56.6%）と最も多く、次いで「増加している」が製造業（21.0%）、非製造業（20.4%）となった。

規模別にみると、「概ね横ばい」が大企業（69.4%）、中堅企業（57.7%）、中小企業（57.0%）、うち小規模企業（61.0%）でいずれも最も多くなった。

図表4-1 直近3年間の正規従業者（正社員・正職員等）の推移について（単一回答）【全産業】



図表4-2 直近3年間の正規従業者（正社員・正職員等）の推移について（単一回答）【全産業・業種別・規模別】



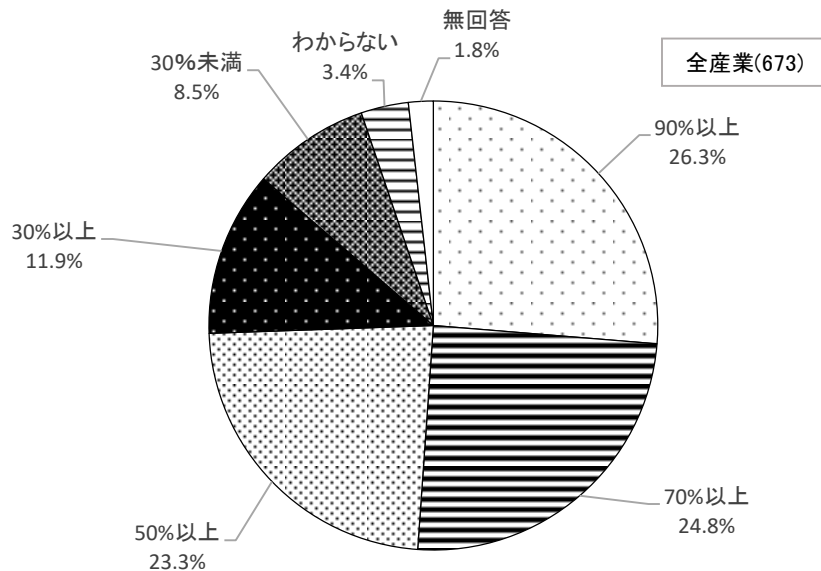
5 従業員のうち、現在横浜市に居住している従業員の割合について

貴社の従業員のうち、現在横浜市に居住している従業員の割合について、全産業では「90%以上」(26.3%)が最も多く、次いで「70%以上」(24.8%)、「50%以上」(23.3%)となった。

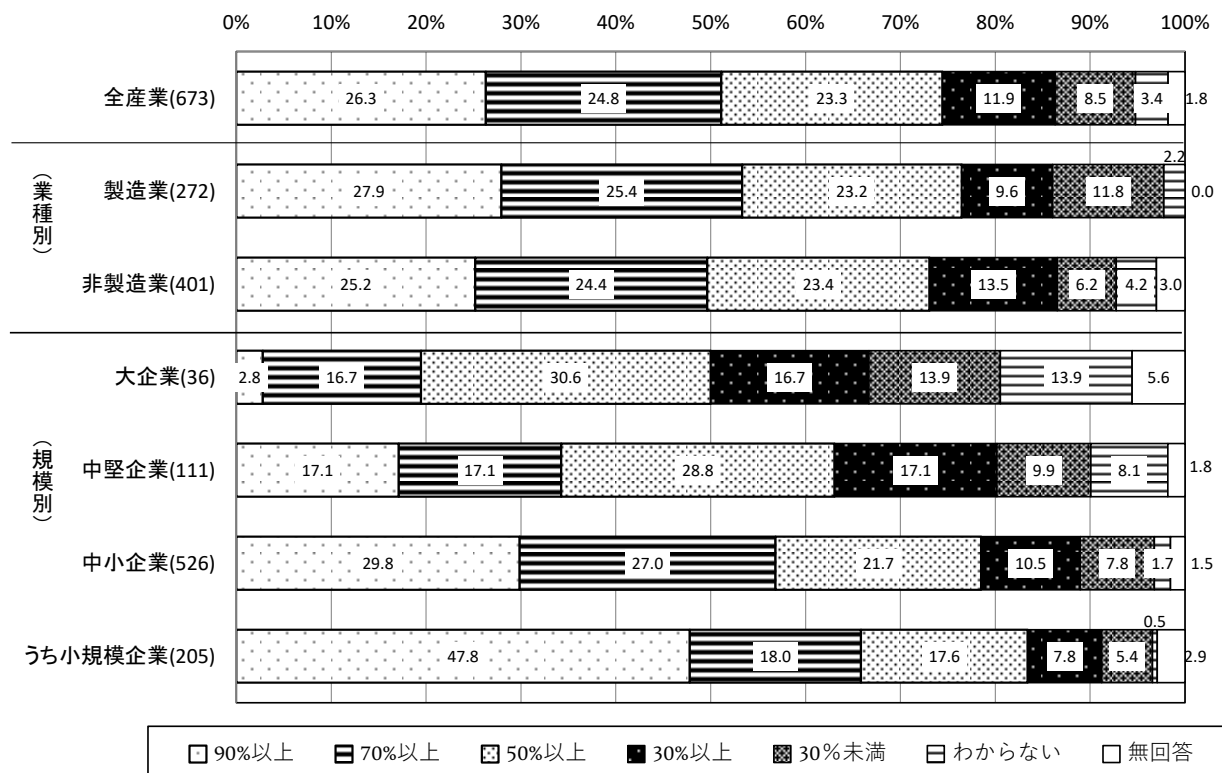
業種別にみると、「90%以上」が製造業(27.9%)、非製造業(25.2%)と最も多く、次いで「70%以上」が製造業(25.4%)、非製造業(24.4%)となった。

規模別にみると、「50%以上」が大企業(30.6%)、中堅企業(28.8%)で最も多く、「90%以上」が中小企業(29.8%)、うち小規模企業(47.8%)で最も多くなった。

図表5-1 従業員のうち、現在横浜市に居住している従業員の割合について (単一回答) 【全産業】



図表5-2 従業員のうち、現在横浜市に居住している従業員の割合について (単一回答) 【全産業・業種別・規模別】



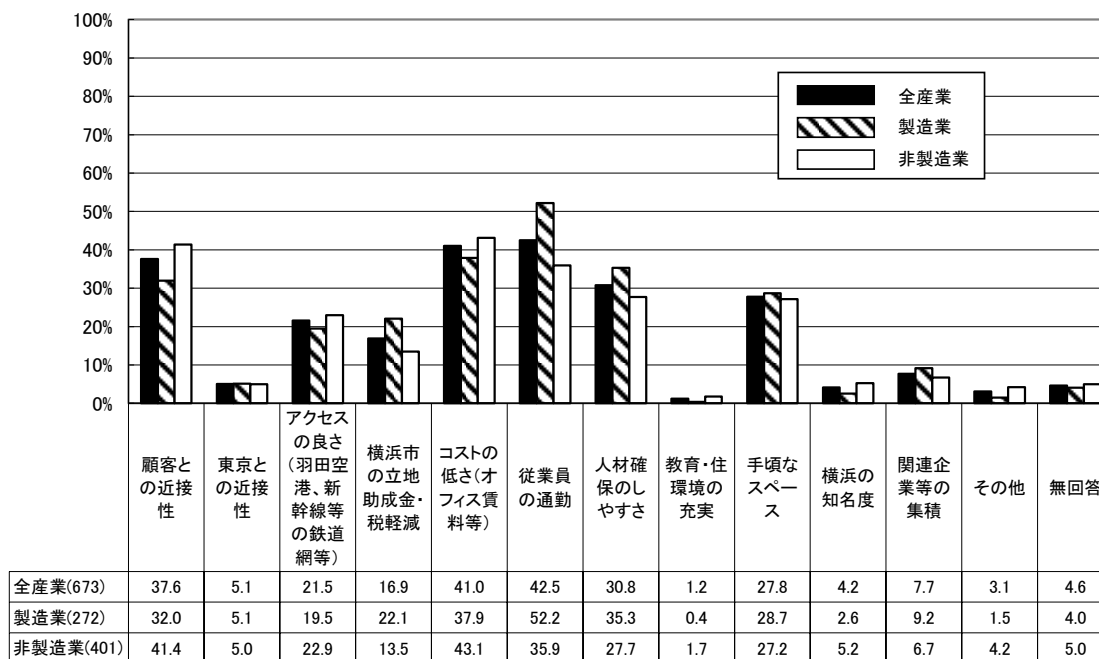
6 施設や設備を新設・増設する場合に重視するポイントについて

施設や設備を新設・増設する場合に重視するポイントについて、全産業では「従業員の通勤」（42.5%）が最も多く、次いで「コストの低さ（オフィス賃料等）」（41.0%）、「顧客との近接性」（37.6%）となった。

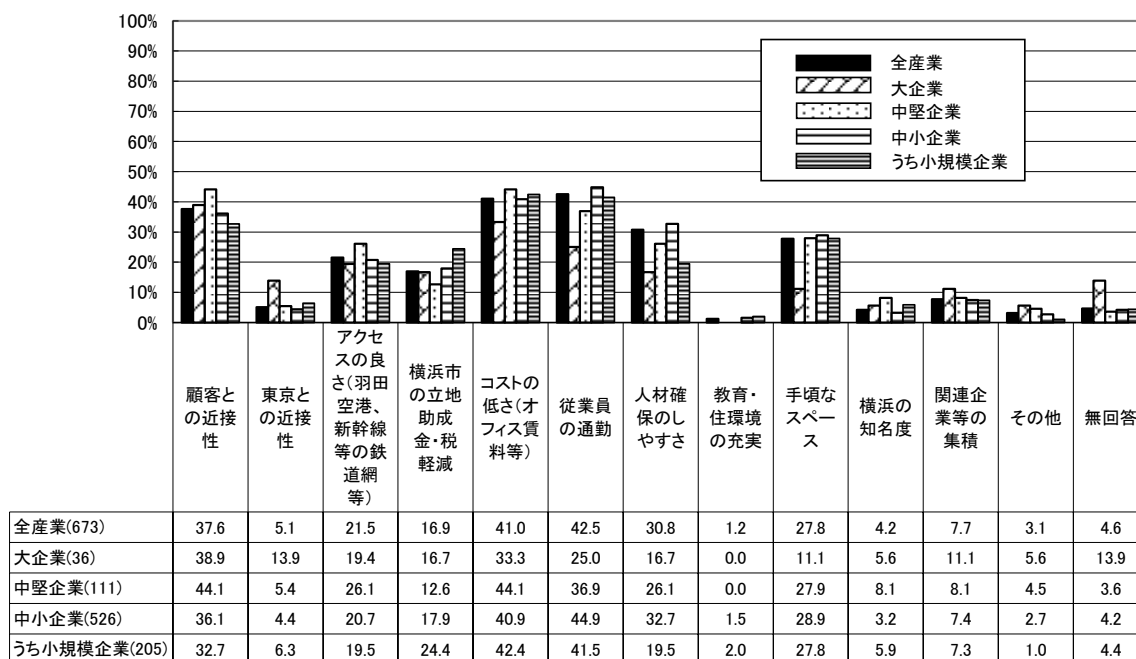
業種別にみると、製造業では「従業員の通勤」（52.2%）が最も多く、次いで「コストの低さ（オフィス賃料等）」（37.9%）、「人材確保のしやすさ」（35.3%）となった。非製造業では「コストの低さ（オフィス賃料等）」（43.1%）が最も多く、次いで「顧客との近接性」（41.4%）、「従業員の通勤」（35.9%）となった。

規模別にみると、大企業では「顧客との近接性」（38.9%）、中堅企業では「顧客との近接性」と「コストの低さ（オフィス賃料等）」（44.1%）、中小企業では「従業員の通勤」（44.9%）、うち小規模企業では「コストの低さ（オフィス賃料等）」（42.4%）が最も多くなった。

図表6-1 施設や設備の新設・増設において、重視するポイントについて（複数回答）【全産業・業種別】



図表6-2 施設や設備の新設・増設において、重視するポイントについて（複数回答）【全産業・規模別】



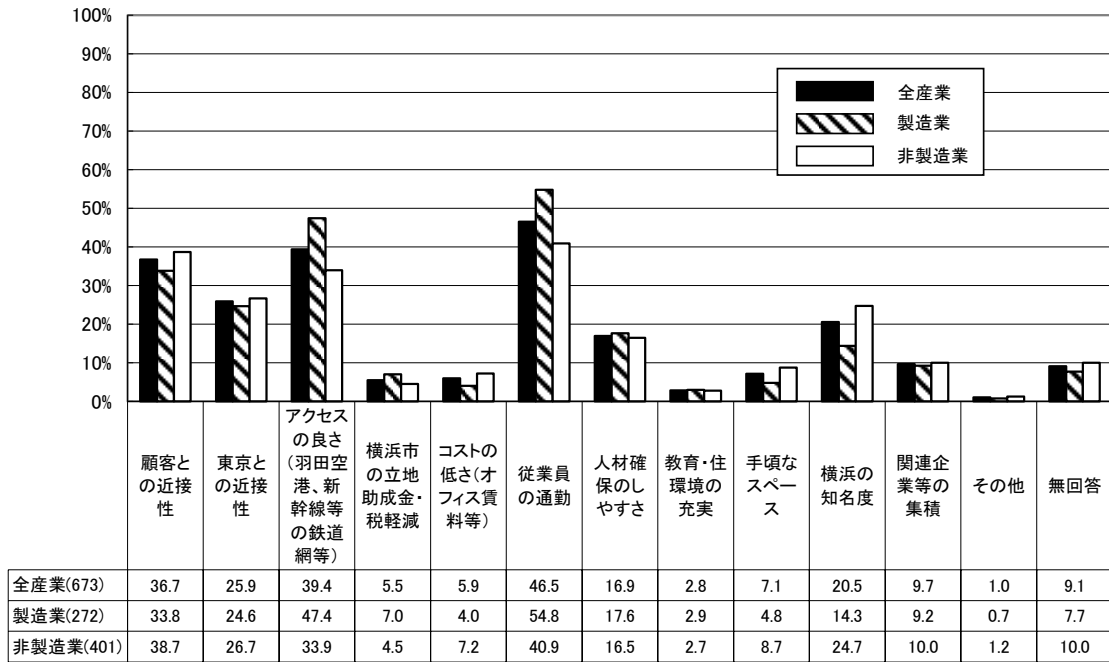
7 事業環境において、横浜市の特長と感ずることについて

事業環境において、横浜市の特長と感ずることについて、全産業では「従業員の通勤」（46.5%）が最も多く、次いで「アクセスの良さ（羽田空港、新幹線等の鉄道網等）」（39.4%）、「顧客との近接性」（36.7%）となった。

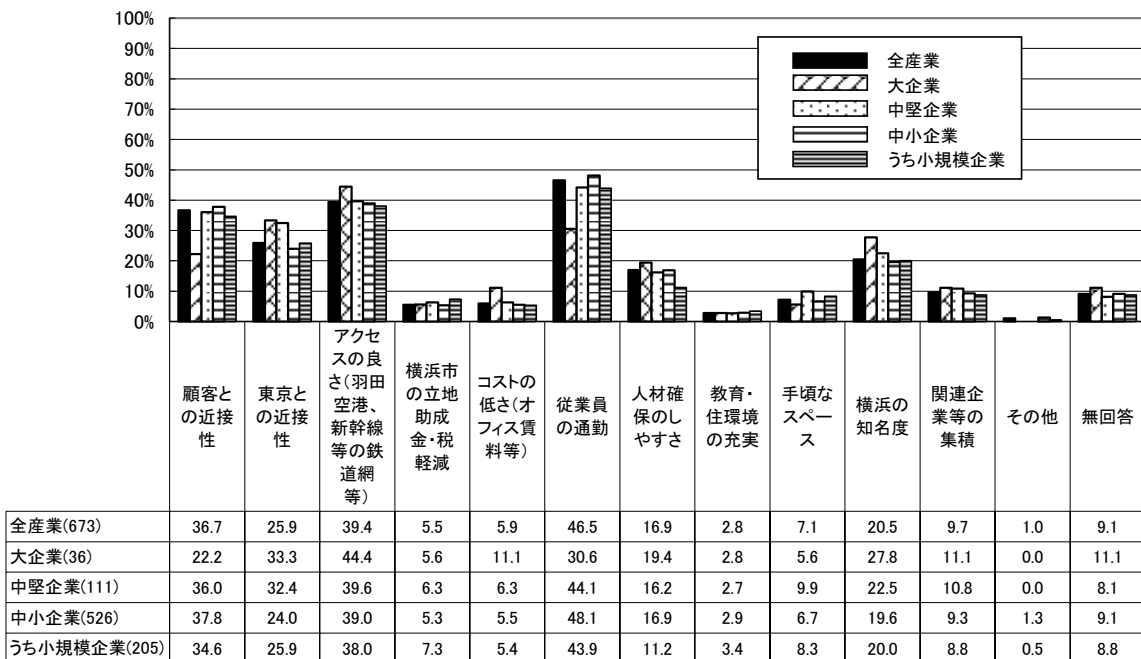
業種別にみると、「従業員の通勤」が製造業（54.8%）、非製造業（40.9%）と最も多く、次いで製造業は「アクセスの良さ（羽田空港、新幹線等の鉄道網等）」（47.4%）、非製造業は「顧客との近接性」（38.7%）となった。

規模別にみると、「従業員の通勤」が中堅企業（44.1%）、中小企業（48.1%）、うち小規模企業（43.9%）でいずれも最も多く、「アクセスの良さ（羽田空港、新幹線等の鉄道網等）」が大企業（44.4%）で最も多くなった。

図表7-1 事業環境において、横浜市の特長と感ずることについて（複数回答）【全産業・業種別】



図表7-2 事業環境において、横浜市の特長と感ずることについて（複数回答）【全産業・規模別】



特別調査「最新の経営動向に関する調査」について__設問内容

Q1 貴社における直近の決算年度の売上高は、コロナ前(2019年度)と比較し、どの程度増減しましたか。次のうちから1つ選択してください。(単一回答)

(例)12月決算の場合、直近2024年度(出ていなければ2023年度)と2019年度決算との比較

- | | |
|----------------|-----------------|
| 1. 増加(+20%以上) | 2. 増加(+16~20%) |
| 3. 増加(+11~15%) | 4. 増加(+6~10%) |
| 5. 増加(+1~5%) | 6. あまり変化なし |
| 7. 減少(△1~5%) | 8. 減少(△6~10%) |
| 9. 減少(△11~15%) | 10. 減少(△16~20%) |
| 11. 減少(△20%以上) | |

Q2 貴社の経営方針(概ね今後5年程度)について、次のうちから1つ選択してください。(単一回答)

※事業拡大とは、新しい市場への進出、新製品やサービスの開発、既存の事業の強化、他社との提携や買収などを想定しています。

- | | |
|--------------------|----------------|
| 1. 積極的に事業を拡大していく予定 | 2. 事業を拡大していく予定 |
| 3. 現状を維持する予定 | 4. 事業を整理していく予定 |
| 5. 未定 | |

Q3-1 既存ビジネスと異なる領域・分野における新たな事業展開(または協業)について、次のうちから1つ選択してください。(単一回答)

- | | |
|--------------|---------------------|
| 1. 既に取り組んでいる | 2. 今後取り組む予定(概ね5年以内) |
| 3. 予定はない | |

(Q3-1で「1. 既に取り組んでいる」、「2. 今後取り組む予定(概ね5年以内)」を選択した方のみ)

Q3-2 新たに事業展開(または協業)を考えている領域・分野について、該当する項目をすべて選択してください。(複数回答可)

- | | |
|------------------|-----------------|
| 1. 環境・脱炭素・新エネルギー | 2. モビリティ・物流インフラ |
| 3. デジタル・AI・量子技術 | 4. ロボット |
| 5. 医療・福祉 | 6. 航空・宇宙 |
| 7. 食・ヘルスケア | 8. 観光・インバウンド |
| 9. 子育て・教育 | 10. その他 |

Q4 貴社における直近3年間の正規従業者(正社員・正職員等)の推移について、次のうちから1つ選択してください。(単一回答)

- | | |
|-----------|----------|
| 1. 増加している | 2. 概ね横ばい |
| 3. 減少している | 4. わからない |

Q5 貴社の従業員のうち、現在横浜市に居住している従業員の割合はどのくらいですか。次のうちから1つ選択してください。(単一回答)

- | | |
|----------|----------|
| 1. 90%以上 | 2. 70%以上 |
| 3. 50%以上 | 4. 30%以上 |
| 5. 30%未満 | 6. わからない |

Q6 施設や設備の新設・増設において、貴社が重視するポイントについて、特に重視する項目を3つ選択してください。(複数回答可)

- | | |
|----------------------------|------------------|
| 1. 顧客との近接性 | 2. 東京との近接性 |
| 3. アクセスの良さ(羽田空港、新幹線等の鉄道網等) | 4. 横浜市の立地助成金・税軽減 |
| 5. コストの低さ(オフィス賃料等) | 6. 従業員の通勤 |
| 7. 人材確保のしやすさ | 8. 教育・住環境の充実 |
| 9. 手頃なスペース | 10. 横浜の知名度 |
| 11. 関連企業等の集積 | 12. その他 |

Q7 事業環境において、横浜市の特長と感ずることはありますか。特に当てはまる項目を3つ選択してください。(複数回答可)

- | | |
|----------------------------|------------------|
| 1. 顧客との近接性 | 2. 東京との近接性 |
| 3. アクセスの良さ(羽田空港、新幹線等の鉄道網等) | 4. 横浜市の立地助成金・税軽減 |
| 5. コストの低さ(オフィス賃料等) | 6. 従業員の通勤 |
| 7. 人材確保のしやすさ | 8. 教育・住環境の充実 |
| 9. 手頃なスペース | 10. 横浜の知名度 |
| 11. 関連企業等の集積 | 12. その他 |

第 132 回横浜市景況・経営動向調査（特別調査）

◎報告書掲載 URL

<https://www.city.yokohama.lg.jp/business/kigyoshien/tokei-chosa/keikyou.html>

発 行：横浜市経済局総務部企画調整課
〒231-0005 横浜市中区本町 6 丁目 50 番地の 10
電話：045-671-2566 FAX：045-661-0692

調査機関：株式会社帝国データバンク 横浜支店
〒231-0007 横浜市中区弁天通 4 丁目 51 番地
電話：045-641-0232 FAX：045-641-2555